

## 飼料用トウモロコシにおける耕起作業前後の堆肥施用効果

### 【1 成果概要】

- (1) 乾物収量(特に子実収量)は堆肥の耕起前施用の方が有意に優れます(図1)。
- (2) 耕起前後の堆肥散布に係る作業時間に差はありません(図2)。
- (3) 播種床形成にかかる作業時間はディスクハロー、バーチャップロー、ロータリーローの順に長くなります(図3)。
- (4) 硝酸態窒素の土壌分布は、耕起前施用では深層(20~30cm)に多く分布し、耕起後施用では中間層(10~20cm)に多く分布します(図4)。

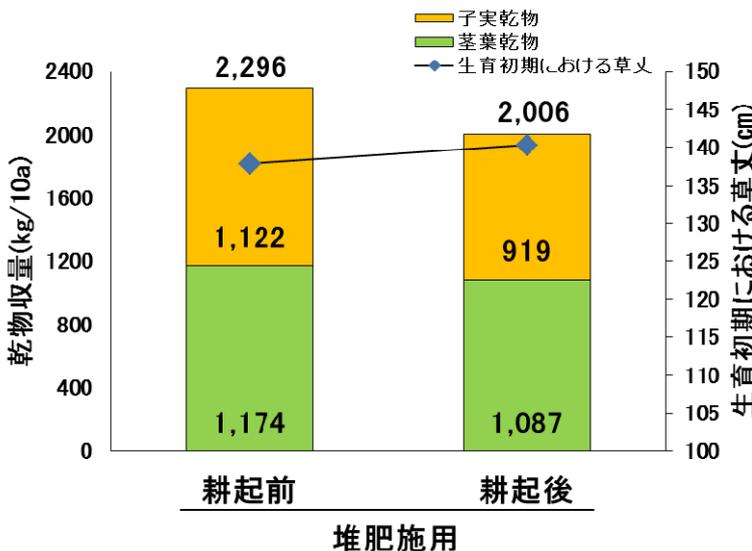


図1 収量性の比較

\* データは平成22年及び平成23年の試験結果の平均値です。

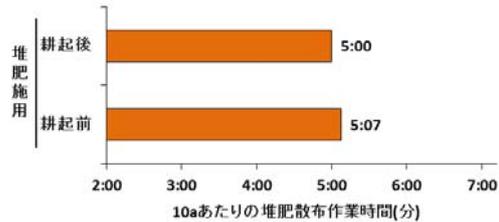


図2 堆肥散布作業時間の比較

\* トラブル時間及び堆肥補給時間は除いて計算しています。

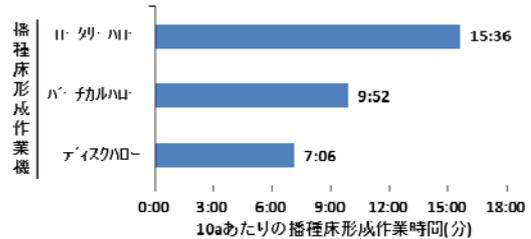


図3 播種床形成作業時間の比較

\* バーチャップロー・ディスクハローは2回がけ、ロータリーローは1回がけです。

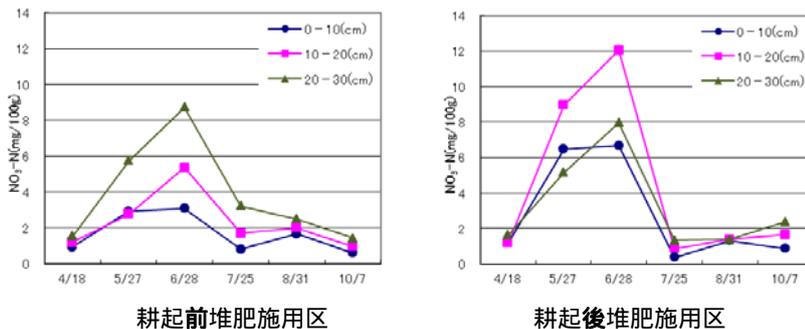


図4 土層階層別 NO<sub>3</sub>-N の分布

\* グラフは平成23年のデータです。

### 【2 留意事項】

- (1) 堆肥は乳牛糞を1か月程度切り返したものを毎年春に各試験区3tずつ施用しました。
- (2) 堆肥を施用した後は速やかに土壌と混和して下さい。
- (3) 栽培管理については牧草・飼料作物生産利用指針を基本として下さい。

### 【3 適応対象】

飼料用トウモロコシを栽培する畜産経営者及びその指導者

担当研究室

畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込 737-1 TEL. 019-688-7317 FAX. 019-688-4327